

希望のあるまちづくり

議会と行政のあり方について



遠藤 幸一
議長

地方分権が進み地方自治体は自己決定・自己責任が原則となり、議会の果たす役割と責任はますます重くなっています。地方自治においては、二元代表制がとられ、その一翼を担う議会としては、執行機関に対する監視機能の充実・強化はもとより、政策立案機能を高めていくことが求められています。そして、首長追随型から是非々型の議会へシフトし、行政と議会がお互い切磋琢磨し、住民福祉の向上を果たすことが重要です。

また、多様化する住民の負託に応えるため、議会での議論に加え、政策提言の提出なども行い、活発な議会活動に取り組んでいます。更なる議会活性化には、変化する情勢を素早く把握し、開かれた議会、合理的な議会運営を目指していきます。また、議員のなり手の確保のため、処遇改善を踏まえた環境整備に取り組んでいきます。

紅花生産と利用拡大における白鷹町の将来について



今野 正明
議会運営委員長

中近東地域が原産の紅花は、3世紀前半に日本に伝来し、我が町の栽培は、1590年代の検地を基に編さんされた古文書「邑鑑」で立証されている。白鷹の紅花（正確には口紅や染織等に使用する紅花から作った「紅もち」のこと）は現在、全国の約6〜7割の生産量（日本一）となっている。その「紅もち」から採れる「紅」色素は、皇室などの日本の国事行為や伝統行事等に使用されている。

このように日本の紅を生み出している白鷹の紅花の将来を展望すれば、先ずは、質の良い歴史と伝統に裏打ちされた「紅もち」等の栽培加工を行うことが肝要と考える。その上で、紅花の薬理効果や特異性を活かした商品開発や交流人口拡大等々は、私たちの創意工夫次第であろう。「日本の紅をつくる町」、「SHIRATAKAREDD」などの言葉を一過性にするのではなく白鷹の将来につながるは、今、私たちがまちづくりの全てに最善を尽くすことに他ならないと思う。